錢口集

中

帝國圖書館藏

雜口集卷之下

播磨　樵風著

帝國圖書館藏

題播磨塩集
克彦句帖序
螢燐
侃子駝句帖序
哀情
佝僂
漫燐

枕詞
送加賀北海序
福禄寿讃
献本多君侯恵蒸鬢魚辞
寿菅原禮興父古稀
賀菅原保貞還暦
寄四竹山人辞
王昭君讃
偶作牡丹辞
遊嵐山序　並餘興

老彦白帖序
富姫業生孫人のみを愛せのむこの某
人物を求しるべきある人はこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

注うまゝ姫なくの屋ん雪と金もちく貧又ふるゝ紙と
行う支嗚呼幻術の延ゝ中ゝたふるる亀て幻術
ハ紙ゝ掌ふをゝ行るひハ主を紅ふゝ行からゝし
ゝ降ゝあゝかゝゝめなくあゝをゝふをかくふいけゝら
盃茶金てふるゝ金をハ新金をふるふ者のちゝ
ゝ中と一隅此かふゝをゝ隠めなるふあゝら亀ゝ二十
金何ゝの紙ふをゝ主ゝて雪ゝ光姫の金
柳の例ゝ雪ゝて何をゝ先ふ紙ゝも雪ゝ
雪ゝ徴ゝ金さんゝ徴ゝ金ゝゝかゝゝてみゝる

金柳ゝのそんていをゝふ世ひゝの

偶作

卒土の濃も活ゆ雪ゝをゝやゝふるゝゝ雪ゝ
ゝ名くゝる山あハゝをゝむゝ鬼ゝ行ゝゝむ
主ん いゝゝゝ色焼ゝをゝ安ゝゝきゝむゝをゆ安ゝ
の雪ゝゝ絶ハふゝゝ里行安の新あゝめゝれゝ
ふゝゝて行ゝゝ母のゆふゝをゆゝ世ゝのゝ体を
孫ゝゝいのふふふ者ゝやゝけん家ゝ月ゝ光者を失
記妹ゝ名ゝのくめゝ十月ゝ母ゝ家ゝ泊めゝれ
ゝ新後枕ゝ湾ゝ行金泊のゝゝゝゝゝゝゝ睡
のおゝけふゝ孫ゝ番ゝくゝ十三葬ゝゝゝて病家

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
在郭ちふ侍ふいてて快然として一日をくらす

赤人の富もそれまで富士見哉

漫辞

行雲偶くこゝに来りて行雲偶のこゝ
ゆくゆくは風と好生あり一云ふ風二曰晨風三
曰表秋風四云色風五曰掃憂風六曰ふく
風ちれらの事ゆゑ一百三十六事とある
ふかぬ事なれハ雲のあと風のあと夜祥の妖孽
所詮人もさらん解ふをもらん釈也もいなふ

いとハ只ちれ風のふきふる事

枕辺

ねるゝ夜ゝ枕をいつくの岳ゝの岳ゝ言葉於
ゆらゝ鈴しく顔の雫を止めしく枕をいつくゝ
らゝそれ雨ふ雨ゝ枕ゝ寝ゝ不ゝ寝る夜
のゝ枕を孔ゝハ好ゝ半ゝ寝ゝ寝ゝ寝ゝ
急ゝ寝ゝ雑歌ハ夢を枕の上ゝ入ゝ世ゝ
時ゝかゝる人ハ枕を乗ゝ鞍ゝの夢ハ枕
ゝかゝひ杜牧ゝいむきハ枕ゝ修ゝ夏ゝ石ゝ寝ゝ
ハ枕ゝ寝ゝ日ゝ泥ゝの条ゝ夏ゝハ鳥ゝ寝ゝ雲ゝ

冨貴人の男めう徳付きうら美術の家好う枕もを
のかかとらふ多く枕まとらも〳〵孫子荊う耳を洗
さん用意とて人ゆきハ時〻類りのと作ゆうる家
荘子う枕く多陳をくゝひ意まう枕の五十金一双
のむの法ゑ人の枕と仮宝の侍をかとらひ梶枕く
海士てあう楽くを撓人の出ゆうら五自自此流枕
狐枕く新ゑう之はの言枕と也孫子う子作者
の結るをおうをらく芳〻はらゆを甘まえれ
ともなるをのを宝て仮保保習ふくの力ゆうら
されハやく鄙酒くとうかくくいうて毀くあらん

只詩人文士の凡をちきく矣さんちをを畏る
古人ハをはやもの枕やうあんとをふを聖く高宗
あんとをふをみ多〻みハ羅んう和ゆ名く
枕くそんと海〻ふを法ハ永自永き和の筆此
やうあるるあう枕を友とくきく流を慰法
うふむう一孟ゑハ仁義を枕とく浩然の筆
を豊ひ習ゑハ蕭何を枕とく哭和の名を
を為くほうあ孫芸を枕とく子房の臥龍
海あう易の洪をゆう蔡沢薊張ハ舌を
見とくゑ里を聖論王を説くまうう

あたたかく栄ふの春を枕とする又
類ひ多し保胤の芝ふ多うくハ老子ト南
う大序を枕とし白ハ名墨を枕とし小雪
若ハ杜律公氏を枕とし伝説の蘊奥をき
もあくうの枕のさんやの外山も甲斐の根を枕
とし人ちく春さめ常雪うの東山ハ蕉雪を
せうう枕の雪安を雪せの維摩ニ解うの
人をもそもふを芥子のうちふかうふ人を枕
くハ四海のおゝ直るとんを枕とし宇宙ニ眠
を枕を言とくく古々ニ枕ふ有る

大男ハ富士箱根を枕とし半島ハ紫山うう枕
あくうる枕くくゝ枕とゝうかる大古代ニ生れあ
もし人くも多も生ふ生の代を枕とくく春うれハ
かくけふさの涙さるふをて春光ううあふ生
きおも当もの れと芝をとうう枕とく 雪の
古代をとて ふくうる

送加賀守小海侍

うのふをとまれハふをあうさるハふ みえれ
うとされハ見さるハふ 新菌も雪枕もうく
一生とて春ふう竜人山を倍とく 間を倍とく

て世を遁すふるつはものの幻術と称蓋翁
の伝説なるべく書化殊奇怪実に笑んて礼を
尽さんて偽らずいそかまゝの芋を合せて
ちまくるうめし雑俗とかとらん称世を
ぬるゝく拵ふるの茲ゝ三千年てるのめ一をらの名
山ふるをきハゝんと思むあるのらを務多人をし
のゆゑをたらん幸小西老人なりて三城伝を
らきう異ゆを弾て四国之一幕をたゝかたゝ九州
もゝたうしさんやとの雪時山逆鋒のとゝあく
こゆるたゝをたゝ代のゝたゝたゝて人をもゝ

おのをもゝ化せらをを東西南北ゝ拵ふも拵世茶
徒ふるふゝ茶流を伝ふゝ安ゝ茶伝ハうゝ茶ゝるを
飯繁ふとハかゝふんと伝志ハをとらを山川原土のお
とむき赤達系の鬼の洗澤も九山代姫と庚人代表
てをて経誉のゝ原を叩く語られうゝ恐ゝゝく
砕ふうめ一古ゝいをゝ也三人行てを少系ふあゝと
先人ゝと一砕のゝ素伝いゝとをゝされて城伝
ゝ空のふゝめるゝさゝし城代ゝらしと云ゝ
巻唐のゝをを点ゝんと怪の墓らをかゝゝ礼多ハ拵
をゝゝも一のあをゝをゝ

かゞの梅が自宅を城せし折柄

福孫喜僕

いらえてこのうるせ殺あるて神を奪ふ後
らきに繋げ茶を奪ふと釈氏うもうとう紙す郷
蔓く蔓む歓を改とくもちあるてこのうるせ
ゑしくこうを見ゆうくおあまち

献本角男侯惰蕗辣鬣魚辞

物元の亂をうつあをは孫ハ紙鞍をあらうく乐え
生荔茎商の角ゑむぼうち鰯ものとて落ゆ
惰あをなうきとゆうて元ちさうち輔と蔓

秋せうあ月惰を秋の夕ハ東坡居士ら綱のうう
市る鱸を蓴をうう和あ武新ら茶屋く新せうき
く鱸をおむらの名をうう輔くしみを取をいの
んせいうて蔓せうれめて輔くし蓴あハ蔓をうふ
時ちあらふ輔らしめ就宅をもさた月ゑ鯖我
半て金鰯を辨しを新ら新ゆ乐ふ新ゆ魚中
半紙をは士も威ゑおを鯨鰍も敢て直ゆ
けも蔓す亀ゑ時ちあうをもちをさをうお輔らし
ふきをうく蔓の大ハ代の月をもく蔓せんをやて
薦をもて包をは士ら惰ゑ世ゑ惰ゑ茶をて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
士為[illegible]仕[illegible]山民は九は素[illegible]
[illegible]
かの[illegible]の[illegible]を[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

消くゝ半る間ハ此年月新の産年ハ生る者の年
みな流る潮ゆゑの年と等しく添ゝ芽くるハ生る間
しあるを大古聖人ハ命を作て民を教へ給ふを
つゝく教をまうけ和漢ともに文を重む義を明ら
芽くゝ新世を半るまゝ人を教へ年の産半るゆゑ人
四年山人ら年を新する産新ならん山人旦ならん只
山人の産ハ竜のきたるゝ不ん人のうゝを不ん者のうゝ不ん
の向ふ不ん竜て年ふるゝ竜ハ年ふるゝ実ゝ年産の時
ハ竜ゝ竜ゝ竜せゝ

王昭君漢

経地の月花十とせ日ゝ足到ゝ世ハ花ハ春
ゝて住ゝ芳ん芳宮中ゝかゝらむ春ゝ人ゝ
時息ハ月ゝみの時ゝかゝ人みゝる
繁蕪の花ゝ和ゝ春ゝ時ゝ花ゝ
保作牡丹詩

庭松岩ゝの枝ゝ牡丹数芝ゝ石の住ゝ植ゝ
ゝ家ゝ春ゝ芳ゝ芳ゝ芳ゝ芳ゝ芳ゝ芳ゝ芳ゝ
和ゝの花ゝ咲ゝて白ゝ白ゝ人ゝ白ゝ人ゝ白ゝ人

蕾をかくえめるハあの屋をいふもいとやさし冨
岩ゝてふるゝはるをされゝ花落土ゝいゝ木
苔苔ゝとみゝく梅実せゝるゝハ梅も実をかゝゝく
ゝくをかゝせゝるハゆゝほうすきやゝ笑ゝ作る僧ゝ
御原ふゝ山ゝゝゝ井一枝ゝとし笑せゝのゝ夏ゝ
ゝゝ山ゝゝゝゝゝゝめゝあゝ魚て笑ゝあひぬ夏土
のみ延ゝゝ以面ゝゝみふゝハ土人代ゝ苔ゝゝゝゝゝ
面域のゝゝうゝゝ千丈の牡みあゝゝゝ地の屋きゆ土
の岩ゝのゝむ程をゝておゝ魚ゝゝ月ハ只地花の冨
岩ゝゝ冨ゝゝ蕾ゝゝかゝゝゝゝゝゝゝゝ蜂ゝ

いゝてこのゝゝう奴とゝるもゝゝて蜂ゝゝひゝゝを拔み
めゝ高ゝを業ゝせゝゝゝ欲ゝ時のゝゝゝもゝゝゝゝ
ゝハ月牡みをかゝゝゝゝ牡み系ゝかゝゝゝ花冨
ゝゝく落ゝゝゝゝ碁をゝゝゝ幔ゝ学し秋ハ秋ゝ培
ゝむゝゝゝ雲ゝゝ雲ゝ四時の岩ゝゝゆゝゝゝゝ
めゝゆゝ土牡めゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝて新
実牡榕ゝゝゝ魚きゝゝゝゝゝゝれハ引ゝて個の個
ゝ拾ゝのゝ植ふゝゝゝ又ゝゝゝゝゝゝ自ゝゝゝ
むゝゝ佐ゝゝゝゝゝ拾ゝ郭素弱ゝ伴ゝ或ゝゝ
後丁あのゝ榕の武庫川をゝゝゝゝ牡みのゝゝ

おもひ合せて再版慨序

高川や折々やまふるこハ紙く

拾遺山序

花をうんとおもひ芳野ふるあめ花をふんと
思ひ嵯山を折く芳野ち破やすくして碎ふ嵯山
ハ強く新をもてるゆゑ世ハ往
疫ゆゑ河ら平ち脆ふ紙を綴て世ハ往
昔紀山流ち咲ち桜を綴ち拙さ世ハ昔紀とも
禁く大堰川をいふ人折といふく俗自の俗をもてす
法輪ハ嵯峨を說ハ侍折く嵯山をやしふ人ゆ

し業獨秋の初業とち侍ある人くの折ハ蛙ハ
いふ山ハ咲やそ花く折てをやを嵯天保十一庚子の
春小谷仁斜先生百十の翁ハ良辰をえら
ん春人をを告ぬ先生曰何て良辰といふらん
や嵯嵯山花のもとく折えんさを彩ふ春とらひ
無といふ者爲ゆ春ちてゆ角ゆもちるを已ふ俗業
折て花を折く笠告あしぬいとやとて侍を一
むをく毛を山を書く侍をえら矣義和を
業く春折空て寄る砧春を献する侍ハ破く
春てく浮むされと俗を春とすをハ花くとと久

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或曰餉ハ乾飯
ニて干飯なり
乾餉ニハいの
りん必山田く
也表記ニ乾
餉のうゑ人ニ
のゆゑ指形の
穴ニ人乾の志
ゆゑハ信者ニて
ゆゑ信れハ
乾飯又餉のと
ゑりうゑハ苦
りん乾

三月十二日

三乾ありしとぬ

宿山線無

三月十二日ハ谷先生の寿宴ハおのゝ思ふ中〻
ゝ〻ゝ空月花の三乾ありしとぬ
の乾ハ一山ニ云ふ月ハ右と云ふ空
ゝゝゝ空月ハ右と云ふ月下の風情ニて
ゝゝゝ空月ハ乾ニ云ふ月下の風情ニて
ゝ大堰の川あを風入巻ゝ時ハ紅葉を
しゝ亀ぬ踏る山川の蜻ゝ川ゝ多ゝ
られハかゝるゝ信を云ふ乾の晩

院次山曰丁飲酒
者為思宿

繰返ゝ詠ゝ思ふゝ歌のゝ心ゝ
月乾ゝ乾ひ乾

菜ゝ花ゝ月ゝ
ゝ日ゝ
ゝ空ゝ
ゝ次山世ゝ
ゝ夕餉の菜ゝ
ゝゝ匠ハ中ゝ
十三ゝ空ゝ

も除くられハ中と大堰ハ河を流れて其さいあるの見
ぬりぬ戸毛所の瀑布毛所てて時ハ水さかふふ
せ一樹のるくるるおをの所自ゝるれいるもちらて
ふふふふさをおをあるれとるれハ一人毛をら
さるるもるくいあらん松の毛
ほそくれ山川のもやをるるゝ山ちふれめくれハ
毋れさるれいるれ貴れ人ら山あもさるる出らふれ
るるるいふるハ所山ハ所れ住伝ある毛ゝ住号れ山ハ
氣山と呼あせゝを後嵯峨の帝らゝ所れ梅を梅
ゝ梅させ半毛ゝるを告てゝせ半毛毛氣山毛と

号ゝ後氣山流れ所を葬毛ゝらるを宮山と号け梅て
るるあかふるさふるとを遠意さるるち面像ゆれ
ハるるの宮れ面へのるを書もれめ十四る正徳毛の歌
ゝ所毛を起ゆを色ハあのるさるる結子を宮ふ毛ふるる
ゝ呼けを面ふるるれ川ゝ嗽き影を清毛帝京をい
るるゝ遠梅顔れハ旭ふきを磨て光ふるさふる
ハ嫉妬の嵯ゝ毛ふるめし抱ゝて作を せ一かるゝを
るるかれ行ハ住人ら新梅の伝けふけやらんとんゝて
毛も新級のおれ半れハを留命ふるる毛ハ世を一り
ふるる毛ぬらんとおるて妻婦のるち唐ふを尺れ

を窓影玲瓏（スキトホル）たる氷をむすぶ玉のうてな
分て其佳人ぞちかうよりうつる月の影
袖うえやさらみをはらてアてられハ美人ふ
の花もうつハはらさるうさ〜命の花のうつる
艶えさかりて已時ひらう山を遠うんとを能
仏ゆうて清めて号くきの世て行て小智妙法の四行
を見ひらるゆうて爲ていハゆうかうてハ
ゆえをまの花の鐘徒ふあこの恵うられ能あち
こ到てられハ古杉えう鐘えてり新まそうえさ〜乃
ふゆめう蔵もるむ蘆まをとうてを於安をれの

内大臣実房公
野三光院号
兼和漢

面くいうらうとかをうあれ鐘響の於ゆうも一番も
しむりゆ〜れ風待ちて於ハゆをうえて鐘をも後ちん
は墨れ鐘をあまの屋んそれうを度ほの他え秋を
ちむゆ〜勢え想うく玉壁の社を弱〜度安の梅を見
うえ菩さえハゆふうて花をまを見もるも迷うん風
待ちれハ半ちて少壁を酒を〜詩ゆ於り鈴の音を
つるさうし強えふ玉みをの姫狩を作をまうる
ちれハみ音まえ於えうこの八弱能をちる毎行う三光
院もおわせられぬれ者を谷えを岸ふうう明ふ
さえゆううふえ色をれハをうを紀来疫えう羽能を

あり。家山の麓を経て合られハ中と一源なり。
半ち流れて引ち。あるいハ陸に流れ出ちとて
下かた民の往ちいとなむを水産を教ハしく礼の家に
座席を設くハむとてハ小魚煮る炙の菜しさく
席をもうけうちて盃を挙ぬ物来ることち
くあるのきさちハるをあつうをうく夕陽斜あら
んとすれいと生先半ちて徐に帰りせらるさ角ハ義
雲に風ちく添ちくるおもむきに似ち絶て東山
に生れ富に帰て新ち稲を刈れハ花頂
山ちをもちうえちかうまた本のうちう学をもて学

かちく経ふれうに富を絶つり枝の三十六峰もなきち
されとうえ海のゆおのあく岸山まて一瞬ゆあ生
空ちに生ち住境の様ちいて可あらん徒雲社経を
くれ中と知ちう徒うに英人を招うあ山ちハ東山の稲
刈せんと田行家系保先人差系経奥て稲をうれ
ハ生家をとゆと徒あんとむ生一面学校と新を接の
てちゆりちちちうれハ花ちもやおしおう経
くおうあいくり敷をもあらんと思ちひうハ今
刈をきのみて言うん水きるのもやう花の今う作意甘し
あてう智見徒の様ハ花ハ花ちてあう咲ものとなん、ふあとを

しをたとの秀弘の実ふまあうちまやこれまてひをを
の弁二位ちら免ちれ花のもく侍らくハ彼ホのををれ
ぬてをそのををくいられハさあてまてをうしやをを
えて為憐の形ひ形をみらをちけを道ををいの
をを殿の高も也力の形うをまのうる侍うをの半らあ半
ををハ後の寂寞あれりしいをを二郎兼忠の豆腐銭
金ををとつか一もれハ一歩も百歩れをををくやをし雅
ををのつ内朱の金をを入あ四朱紙をもおをを入酒
を金ををををを香かををるけをいひ紙あひをらを
欲宮ハ号月花し下戸あをれハ四朱を物を登一杯

のみ旋花旋も好をををあ盃れ無をををの紙をを
し時をを前をれハ常をへをを付枕のゆををを
来る塗をつあ十をる紙れ名紙をををををを
ををを也て九条ほのをも見めををを物て明るのを
をも酒をを紙をを白らを字侍あもむを侍るをを紙
をををををを於尊を云を侍るをほて上来ふ系
と古をを万あ子ハ老人を条れ御くをれハ寂侍の
れ紙の手をを仏を紙半の行跡ほけのをををを紙ハ明
侍を手を実也花の紙れ侍ほをとて時も侍をも白さ
を来れ咲完を花の紙ほをを咲を来を山中を号

の作るさま殆ども有へくあるべき地も莫
大なる絵ちらはりてそみるに小実成をふつく者多
けれ共少所ゝ卒塔婆の行をも写と見へかたくハそハ
奥ふこのうきさまものそれ家ともせんもたいあ一なるを
くとら侍次秋をて後時雨降れ霜を雪まきりとあるく
きのせてはるをを雪ふるに雪ふるぬ旧後烏頂も世後
きりてをせまいはハ化の絵をてあるにもけるも何くやら
なをれあるかをて是はゆを誠に実れ明神の社怪丸の
や作となるあ

時雨れなるのかるも雪れあ

実れ明神ハむの怪丸ゝ作ゝ家の作をうふハを
して作をへあるを面ゝとを名秘を作くしハいのある神
の秘ゝ怪丸ハ敦実親王の雅楽也ともゝ琴琵
の秘也保名啄木ハ親王の秘也をゆとして保ゝるとそ
それらゝ育へれ琴琵保名ハ啄木ゝ怪丸の三位ゝれ二也
を三ゝせ行からひて作ゝ也ゝらいのをれ藝を学ふる
たをかゝ狂人保のらゝハをぬをもりかとゝ也と感応を
保名おの花樹ゝの物ゝゝ時あゝぬ者れをを者ハを
あをへゝををを笑をゝ作る実れをゝゝを四宝川ゝとゝあを
ゝゝて怪丸ハ延年舞の四ゝ者ゝ保曲を作ゝしハあを行る

[illegible]ハ延喜帝[illegible]の人[illegible]
[illegible]ひつを[illegible]の人[illegible]
[illegible]を世[illegible]
[illegible]大ほも又一[illegible]三井[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
嗚呼義仲ハ弱冠[illegible]
[illegible]氏の大軍を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

や往昔城主の召使ひの女蕨式部と号しを蕨の名ありけ
かゝる事ありしなるべし平家物語に見へ上東門院に
仕へ奉りて秋の月清きよるかむらに行くまゝ須磨
赤石なんとを作り殺くるを十四帖の源氏にも名高の
歌謡されハ其代の狂もゆのさくかふとあるとも歌
をすゝめ奪れて行ぬるうされいくて此侍
ることもんもはそうと小ぶてをゆるめて歩く八幡社
前を通ると武家のあるゝとおもわれて出あ次がくりて宮居
川の名ふ人と本をさしてゆ書あの山社頂と使ゝ
松のあるハ出るるちとの也僕ら肩やすめて男人之

平ものゝ言きさせて行くゝ利ゝる男ゝて田上ゆさ行う
嶽をもて免幼住居の家和をゝ〳〵れある面ゆさ
ゝあゝと歩ゝる紙るの名も入てる茅かゝるゝ
者住の名ゝ名ゝ名ゝ

[illegible]

家をまもりけぬあるもあけをハ香あるをそうる
きて夜ふのうちに照そるハ新きをれかうろれをるのゆ
うちとうちうち伝信お撰う歌の風情ハ紫みのをるれ
ゆふるゆをしいをやとて起るれハあハきと照さうる

山和尚のうらやあるをてあれ

ナハる例の猿蓑ひしてけるをもめをもの名伝の川
雪方半ちのをりて拾ふるう綱代まるをををふ綱
の傳らう縁幾半るを角れをををのをる地をて宮歌
いをいのうををるる御をのうれハをもむうをかをををう

久を小坂ををれハ和のう世ををうふうれ伝ををを
ていをうう坂ををふ宮をうう拾ふををうう行
うを雲壁のうおくをうう山の頭ハ角伝の二年碁伝元保の
頭のめをうをを也半ふひぬを内掃除いを保ふけきハ六をハ
一をををうを雲ををせうをを又兼うう角伝ををを人ををれを
宮然角ふを拾ふ人伝ふをををうれ三宮寺ハふを先
ふ拾しかをふれ子ををハさハやを)宮伝の茶宮をハ
雲利氏をう拾うめ義保の事大角ケを命し極をせ
半ふひを後上林宮吹と丹菴をを弁伝をう世里を
稲伝せを先宮ふをを平ふひめを宮伝拾古ひて既を

晩年白貨泉
八銖と五銖組
とやらう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の世にまれなる美女にて時に衣をうけし物ゝ
所ゝを代の物ゝ哀をそへ給ふ物ハ
ゝてみゝを深く物の哀ふかきハ池ゝを
事にのゝ物の生成ゝてゝる所をつゝみ沈むの社を
侍の宮大佛まゐりにハ
ゝを永ゝ日も暮ふ侍ふ本さに里ゝをうまれい媚女
藝妓の多年にまゐるも多侍ゝ侍ゝて悔ゝ
むゝふゝをゝ古んのゝ四ゝゝゝゝ
ゝゝかにゝの新宮ゝおふしゝの寄寄ゝ侍ゝ
ゝゝ侍ゝ侍ゝ家ゝれゝゝ侍ゝて化ゝて地蔵菩

一尺ゝかゝに侍ゝてゝみゝゝかに物ゝゝゝゝ
ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ原ゝひゝゝれ半ゝ侍ゝてゝ
に地蔵ゝゝゝゝ嗚呼地蔵之器小哉かゝゝふき
ゝて嬰ゝに法華ゝゝゝ丈ゝに侍ゝゝ
鬼に母ゝ寄ゝゝ むゝんみゝて侍ゝやゝゝ亡ハのゝゝ
接の形ゝい常みゝに侍ゝおゝゝ侍ゝふゝて世ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ里にゆゝ行ゝ一接ゝのゝゝ
風弱ゝゝて初ゝに待ゝおゝゝゝれて接真ゝ侍ゝ
ゝれいゝゝゝけして行ゝゝも接ゝゝ人ゝゝゝゝ
孫世ゝ弱ゝゝ半ゝれハ用接ゝ人接ゝて已ゝもかゝむ

行て起ぬ午時のころ雷電ゆるくらうえもそらハ黒雲と霧
ふせこの果ヒケて昉あくれハ人ひとゝ此をれ名有る免
ゝうつくふハ行くゝ田畑をとらんとさいで行て法隆
ちくてくゝぬむりみ仏寺をのきふくめるハ孫孫ゝるく
笑えゝ行るふ龍田明神ゝ行る午時の飯れをやうれと
行年人れ山越きくれハかるうゝ落ゝて行るるも田くて二
人くもかくゝのうてもあ龍田川をたゝ岳めを斗れ出るある
川あのうあうハ行らうゝあのれるぶふけをおきのをう
あゝとうゝる龍田山ゝやあゝ山行をるとうゝ行ゝる
そ姫くくるうびち雷電凄くゝて山岳を樹伐る斗を

電光ハ見裏を出るを雷鳴ハ天を裂くなをと入る
うゝこる岳をかう後ゝ行くゝ僕ハ行をかりを
あのうこを伐るさくをとも思いくうくゝ行迅雷
ゝるれ列てさ鳴ゝ海面をいあふれあやけるる
をゝいるふへ迅のるやいふや駆れ上く行くゝと笑ゆれと
る岳をうゝ岳をゝて大吉れれふくうゝ裂
平くくゝを気も竜も為ゝをて行ゝとうゝも之れ果
くくかくれ谷のきくゝちゝをゝてゝの麻衣を流
きゝれて孤あくきけをくうゝれ鳴ゝ鳴てゝるゝと
のやせくれい身ゝをゝ伐るくゝ行ゝ岳てゝる谷くゝ行ゝ岳

と仰せられしもさることなれども
なほ一生
をもてあそぶるいろいろもみあやまりなれとそかりみて
ゆるしゆるされハ帰りしのちみるにさきの雷
をきくに人をかるも初よりやう学ぶとて
そのあとの塊を家のうちにて思ひ覚て人多行を
力なくかるを初てはるのハ波をそえうと学
えて幸にして位山をもとめ五雷のもとに
床を敷るハ法華平此新に原ふ衍佛兵未所に
まのうち者をうめ申時ふらう時て行ことをもいと
や行ひの法を弱と弱不彦へ新てられハまえきけみて

とうとうく杯盤さいやうをもされうに回石せ武士ふう
要人もおるとふ生的かそ各帝みれさく侍う
あんて法ふ学とまく学ふ人ふうく屋もふうく弱
かて狗ふ中要人ふ何を鬻ふ業ふやと学ふ結
をハ眼鏡うとと学ふあるをおてふみ新弱をゆみの
られハきとえふ初のし眼鏡ハ老をうふうもる佳
ふを学をふうきふうて仁此深し法を行ふ老ふ学
ふ人を自ふせてハ多使俳ふと学ふられハ例ふそ
も眼ふうふハ下ふもを人此明ふお底を上ふと斯ふ
初を含ふあれハ可きを業ふのふと毀あふうふ

そハ高くを育むとさてそこに昭るゝ科と何
所にあれハ孫あれハ大槩貴人をきいもあり劉霞
子う賣柑者言てつくるあるを孫ある人のおハ英
うてハ敗家をとれ人を毀ちくを貴人ハ言耳風の
めえ武士を部ゝ多を何なてに力てに力ををゝ
られをゝと知て風を無ゝ人めを世ゝる異ばつを侍
ゝれハ蕾蕚の種根海の法あちく行神ゝ高むち
四方にふゝてあるの先保ゝ者をふゝの所山牧孫樵
のゝゝをゝらしと赤をハ何れ樵ゝをゝとゝられる山
つをも九郎の話をゝてゝ義ゝ侍ゝ八尾の里、二

里をかゝ菜れ花今ををうをを寝ゝて睡をを咳
徒や使をゝをちの八尾ゝ毛ゝ風尾ゝををひは
ゝれ雷ハ出ゝ毛もあゝもあをゝ強を到ゝを
をゝゝをもあゝゝと戦きて侍ゝ風尾れをゝ侍
ゝゝを世ををの武ゝを里れをの雷鼓ゝ多をて苦を
を獲ゝ絵をゝふをゝて死せゝ人家殺ゝゝる新ゝ死
田玉の旅人ゝ今を氣を死を救をんと急ゝ近刑つみ
ををの姫ゝゝ世雷(スリハチ)をてをゝ世獲ゝめゝを毛ふゝ新を
しゝくかしをふゝめゝ仕てゝゝを毛ふゝ毒をを
をゝゝて種ををくを使ゝつ使ゝ八思ゝてをゝを使

あひしらとさかつみてく息炊也種まきてあつらうからやうなはいつもさうしをたてとのもきをき人を盛淀をもさつあてうとゝ竹田玉青東撃てヌ鉄あらハ役ゝ面ゝとそる任せんみ俗俱あらハうら野大なと思ふんう考鉄お集れ生を玉ゝめ有ゝめ有ゝ大むうしハ産五れ医方ちく有ゝ玉ハうゝ玉れ医方てい俗を鄙の山系ちとゝる俗況ひ有ゝてゆるハ大巳実余れ生方ちうんうらみうゝハ半てゝものとハおゝとさうたてゝさゝうむ生てゝむくゝ二形集ゝ玉ゝ有ゝ之鄙ひく俗俗町系玉ゝ於ゝう宝くさゝうれハかゝめて系代ゝ有ゝ用勢ゝ白ゝ世系ゝ人てゝとゝ盃盤を

田ゝく系ゝゝうゝハ系ゝ有ゝを行系ゝやう宝ゝゝゝゝ就の鉄ゝゝゝやいゝふせみゝゝす俗弱ゝゝゝよハうれ鉄ゝ有ゝの
ゝゝふむけゝゝ宝ゝゝ俗ゝれとゝゝうゝ鞍俗俗ゝゝゝ
ゝ無系ゝ鳴俗ゝゝゝてきゝの是ゝ有ゝふゝ
ゝゝゝ

雜口集巻之下終

弘化二乙巳年秋季新刻
播州曾根入江氏藏版

大阪心斎橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門
京三条通寺町西入 丸屋善兵衛
同 寺町 野田治兵衛
江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
同 貳丁目 山城屋佐兵衛
同 芝神明前 岡田屋嘉七
同 石町十軒店 英大助

發弘書賈